

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 2 7 7 0 4 0 0 5 3 5 |
| 法人名 | 港医療生活協同組合 |
| 事業所名 | グループホームしおかぜ |
| 所在地 | 大阪市港区八幡屋3丁目5番1号 (電話) 06-4395-3311 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン |
| 所在地 | 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル1TM棟9階 |
| 訪問調査日 | 平成21年 11月 20日 |
| 評価確定日 | 平成21年 12月 10日 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄中央線朝潮橋下車、徒歩10分余りに位置し、商店街、公営住宅、新しいマンション、戸建住宅が立ち並ぶ庶民的住宅街である。グループホームの近くには小学校、中学校、公園がある。徒歩圏内にある市立港近隣センターは緊急災害時の避難場所になっている。「しおかぜ」は開所当初から6人定員で、小さいながら家族のように生活しているホームである。職員は持てる力の維持のための介護支援を大切にしている。経営母体が港医療生協であり、地域の組合員が、外出時、緊急時には力となってくれる。また地域の自治体も協力的であることは、事業所としては心強い。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】(平成21年9月4日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-----------------------|-------------|
| 開設年月日 | 平成15年 4月 1日 |
| ユニット数 | 1 ユニット |
| 利用定員数 | 6 人 |
| 職員数 | 9 人 |
| 常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算8.4人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------|
| 建物構造 | 鉄筋 造り |
| | 3階建ての 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|------------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 42,000 円 | その他の経費(月額) | 24,000 円 | |
| 敷 金 | 有 | 〇無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(500,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無退所 時全額変換 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 600 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|-----|----|------|
| 利用者人数 | 6 名 | 男性 | 0名 | 女性 | 6名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 0 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 88 歳 | 最低 | 84歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | もなと生協診療所 西淀病院 とみもと歯科 |
|---------|----------------------|

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価時で改善課題の内、家族への個々の報告と介護計画定期的見直しはまだ達成できていない。運営推進会議は、参加者も増えて、徐々に充実しつつある。重度化した時の対応については、家族との話し合いは図られ、初めての看取りをホームで行った。常備食品類も、お米、水などは常備している、今後は品目を増やすなど更に進めて欲しい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> |
| | <p>自己評価票の作成は主に管理者が作成した、職員の日常業務の見直しと言う点から、職員の参加を図られたい。外部評価を義務として捉えるのではなく、介護サービスの質の向上として受審されている。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の内容は充実しているが、回数が2ヶ月に1回とはなっていない。また行政の参加が見られていない。連絡はしているが参加に至っていない。更に働きかけをして、参加につなげていただきたい。数人の家族は運営推進会議以外でもホームの訪問を良くして、家族以外の入居者とも顔見知りとなっている。</p> |
| | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に苦情箱は設置されている。行政の苦情窓口の記載を求めた。家族はよく来訪する。運営に対して苦情は出ていない。アンケートにも家族の感謝の言葉があった。苦情と言うより要望なども遠慮なく言える間柄造りが出来ているとも考える。これからも更に努力されたい。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の幼稚園児がホームを訪れてくれることもあり、地域の行事にも参加している。また職員と食料品の買い物には必ず一緒に行くことで、住み慣れた町での生活を実感できていると考える。また緊急時には地域の自治会、医療生協の組合員との連携が出来ている。</p> |

グループホームしおかぜ

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|--|---------------------|---|
| ・理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 入居者を尊重し、入居者、個人の意思や思いを優先する支援を目指す。職員本位の都合を押しつけない、穏やかな生活を過ごす事で、自宅のようなホームにしたい。入居者のあらたな能力の発見・発揮できるように適切な援助（すぐに手や口を出さない）支援を行い、安全で安心できる生活実現に努める。入居者の通信・交流の援助を行い、身体的にも精神的にも拘束しない。グループホームに居住している地域社会の一員であると入居者が感じられるように、楽しみながら日々の生活が過ごせるように支援を行う。（要約） | | 理念は理想に満ちていて、訪問時の対応においても理念に沿って支援されていることは理解できたが、法人の目指しているグループホームのあり方、職員一同の気持ちを、適切な言葉、または、短い文で掲示されることを願う。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 上記理念を額に入れグループホーム内に掲げている。職員一人ひとりに理念を配布説明し理念の実践に向けて取り組んでいる。 | | 理念は掲示されているが、近づかないと読めない。額に入れて読む文章には適していない。《項目1》で記述したことを念頭に職員一同で考えた言葉を掲げられたい |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の商店会に加入。総会などにも出席し関係を築いている。隣近所の住民の方々も気軽に挨拶などして下さる関係づくりを行っている。 | | 家族、地域の医療生協の組合員が、ボランティアとして参加してくれている。車椅子でしか外出できない入居者も、一緒に商店街に買い物に行っている。そのことは地域の中で生活している実感を、入居者も地域の人も分かってくれている。これからも続けていただきたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価のたびに、職員会議で、日頃行っているケアについての振り返る良い機会として。管理者は「入居者にとり、さらに良い支援をしたい。外の人目で見ってもらって、外部評価を活かしていきたい」との発言があった | | 外部評価を年1回の義務だからと受審するのではなく、出来ることは全てやっているが、更に何か足りないところはないか、と思うところから更なる発展・改善が出来ると思う、是非役立てて欲しい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|---|---|---------------------|---|
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族、港区社会福祉協議会、地域町会長、職員が出席して開催している。報告、相談、要望、助言をいただき、実りある会議となっている。 | | 運営推進会議に行政からの参加はない、連絡はするが参加してもらえていない。欠席時でも会議の議事録を送ることで参加につながる努力を期待する。 |
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 認知症学習会を地域と行政と協働で開催した。職員が講師として参加している。 | | ホームの3階には広いスペースがある。地域の自治会の会議、婦人会の会議にほぼ毎日のように使ってもらっているとのことである。この部屋を使って認知症の講座などを企画し地域に還元する場とされたい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族会・運営推進会議などで定期報告している。日常的に、家族が面会に来られたときに報告・相談などは随時行っている。 | | 会計報告はグループホーム内で明細を作成し、運営体法人総務部から入居者家族に報告している。金銭報告、運営体の便りに加え入居者のホームでの生活の様子を、職員が毎月1回記録し、家族に報告し、其れを残しておくことは、介護記録としても有効なものとなると考える。 |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者・地域の方々からの意見・苦情に関してはグループホーム内で出来ることについては、会議などで討議し対応している。 | | 運営体本部で苦情の管理などしている、小さなことで電話で済ましたことも、ノートに記録を取り、その対応までも残されることを望む。 |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動の際に引継ぎ期間を設けて入居者の動揺を少なくするように配慮している。 | | 運営体としてある程度の人事異動は起こりうることである。今まで職員の交代において著しい動揺が有ったことはなかったとのことであるが、これからも計画的な職員の異動と、異動時には、きめ細かい対応を継続されたい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|---------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の研修、グループホームネットワークなどの外部研修を通して育成に努めている。新人に対しては3月(1回目研修)と9月(2回目研修)に行っている。外部研修は勤務扱いで参加している。 | | 職員の質を向上させるため、法人内で研修、外部研修を引き続き、積極的に取り入れられたい。また外部研修については勤務扱いであり評価できる。研修内容を全職員が共有し、各職員の質の向上を期待する。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 大阪市グループホームネットワーク、港区内のグループホームとの連携を行っている。 | | 地域のグループホームとの連携は良く出来ている。他のグループホームとの交流は職員の視野を広げ、悩み、問題点を話すことでストレスなどの発散にも成りうる、これからも引き続き連携し、情報交換の場とされたい。 |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 仮入居期間を設けて短期での利用や、家族などが沢山来ていただけるように配慮し馴染める環境づくりに努めている。 | | 入居時の聞き取りの記録や、生活歴に関する記述が、充実しているとはいえない。入居者のホームでの生活開始に資するためにも、生活歴記録の充実を望む。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員はあくまで支援をするという視点で、一方的なケアの押し付けにならないように注意している。入居者本人が主体的に意見をだし、行動できる場面を作ることを心がけている。 | | 介護度が高い入居者も出来ることはしている。「まだここで働いている」と思っている入居者もいて、ほほえましく思った。自分の役割があると言う毎日となるためにも、入居者の意向をしっかりと、汲み取ることが介護者に求められる。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|---------------------|---|
| ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>希望・意向についてはいつでも聞とれるように努めている。本人・家族・職員・関係者と話し合い、それぞれ意見やアイデアを出し、より良い介護計画が作成できるようにしている。</p> | | <p>開所時からの入居者もいて、家族のように生活している様子が見て取れた。年齢的に、遠慮がちに成るところもある世代である、きめ細やかな対応が続けられることを期待する。</p> |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>本人・家族・職員・関係者と話し合い、それぞれ意見やアイデアを出し、より良い介護計画が作成できるようにしている。介護計画見直し期間は特に設けていない。体調の変化時や、問題がおきた時に見直している。</p> | | <p>介護計画書は見やすく、本人にどんなケアが必要か、また達成度などの記入があり、其れは試行錯誤の上に来た書式となっている。6ヶ月毎に、全員の定期的介護計画の見直しをすることを望む。</p> |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>必要に応じて計画の見直しを行っている。</p> | | <p>《項目36》に記したように体調の変化や必要に応じた見直しは作成されている。</p> |
| 3．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>同施設内のデイサービスにも参加したり、他の事業所とも常に連携を図って柔軟な支援が行える環境づくりをしている。</p> | | <p>1階にあるディサービスを利用している入居者もいる。診療所に受診の際は医療生協の車が送迎してくれる。</p> |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|---------------------|---|
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 運営体で、提携先ともなっている診療所の医師の往診を定期的(2週間に1回)に、受けている。歯科の受診は必要に応じて歯科医の往診を受けている。 | | 運営体の医師の往診と緊急時対応も出来ている。また診療所の通院には運営体の車が送迎をする、診療所の職員とは顔なじみであり、通院の付き添いも診療所職員が対応してくれる。 |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時から終末期の際の対応など家族と相談し、本人、家族の要望に添って支援している。かかりつけ医とも密に連携をとっており情報方針の共有を図っている。 | | 最近、開所時からの入居者の看取りをホームでした。その準備として、運営体専務で元看護師、看取りの経験を何回もしている方を講師に、介護職全員が、その時にどうすべきか、介護の仕方、心の持ち方などの研修を受けた。グループホーム「しおかぜ」の終末期に向けた方針に意気を感じた。また他の入居者、家族には、終末期に対しての安堵感につながったのではと考える。 |
| ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | 職員は、入居者が人生の先輩であることを常に念頭において声かけや対応をしている。介護記録などは、家族や本人がいつでも閲覧できるように、居間のコーナーに置いてある。 | | 個人の大切な情報が、他の家族の目に触れる可能性も考えられるので、管理の行き届く事務室に移すなど、より慎重な保管を望む。 |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大まかな一日の流れはあるが入居者はゆったりと一人ひとりのペースで過している。通院する人、一階のデイサービスに行く人、スタッフと食材の買い物に行く人など、本人の意思や希望を優先した支援が行われている。 | | 小規模の特性を活かして、墓参など私的な外出の支援も願いたい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|--|---------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者と相談しながらメニューを決め、希望者がスタッフと共に買い物、調理、盛り付け配膳を行っている。職員は入居者と同じテーブルに着き楽しく談笑しながら食事支援をしている。 | | 職員は入居者の意欲や力に応じゴマすりや、野菜の皮むき、刻みなど調理への参加を促している。持てる力を引き出す支援は自信や心身の機能回復にも繋がるので、今後も積極的に働きかけて頂きたい。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 夜間のスタッフが手薄になるとき以外は、毎日いつでも入りたい時に入浴できるようにしている。2日に1回入浴する人が多いようである。 | | これまでの生活習慣から、就寝前に入浴を希望する人があれば、要望に副えるよう柔軟に対応して頂きたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | デイサービスに行き書道を楽しんだり、訪問した家族と外出したり、散歩、買い物、調理、生け花など、各人の趣味や意欲に合わせた支援を行っている。 | | 土と親しむ園芸は、認知症状の改善に有効である。屋上のスペースを活用して、野菜の栽培など希望者の楽しみの一つに加えて頂きたい。 |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 個人の必要物品の買い物や、近くの商店街へ食材の買出しなど、日常生活のさまざまな場面で外出の機会と捉えて、支援を行っている。 | | 外出することで、地域の人との交流や、季節の変化を肌で感じる事が出来る。何よりも気分転換になるので、大いに外出の機会を増やして欲しい。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 入居当初は落ち着きなく、出かけたがることもあったが、「自分の家」との認識が進むにつれて、勝手に出て行くこともない。玄関に施錠せず、職員にも施錠しないケアについて日々説明し理解を深めている。 | | 日中は玄関に施錠することなく、家族も気軽に来訪して、入居者に閉塞感のない自由な暮らしを実現している。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|------|--|--|---------------------|---|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の避難訓練を実施、また会議で避難経路の確認をしている。訓練では、入居者を職員二人で抱えて避難出来ることを確認した。「災害時緊急連絡網」には近くに住む職員や地域の組合員も参加している。 | | 災害時の避難場所は八幡屋小学校、市立港区近隣センターである。米と水は1週間分の備蓄がある。今後は組合員以外の一般住民の訓練参加を呼びかけたい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立表で食べたものを把握、摂取量はチェック表にて個人別に管理している。栄養・水分の不足な人にはおやつなどで補食するように工夫している。 | | 水分不足にならぬよう、食欲低下時や入浴の前後、就寝前など、こまめに水分補給を願いたい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、自然な音・光に配慮し、落ち着いた色調のカーテンとソファが設えてある。コーナーに料理の本、壁面にはカレンダーや時計、季節感のある装飾が施され、家庭的な環境が整えられている。 | | 居間のソファの一部が深く沈みすぎるため、下肢筋力の低下した高齢者は立ち上がりが困難と思われるので、修繕をお願いしたい。 |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人の思い出の結婚写真や、フラワーリース、趣味の書道作品の掲示、仏壇、また家族が転倒防止のため手すりを設置してあったり、居心地よく暮らせるように工夫されている。 | | 開口部分の少ない部屋には、天窓が設けられており、自然光が差し込んで明るい。身近に馴染みのものを飾り、自分らしい暮らしができています。 |

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。